

令和7年グリーンサークル教室

足利を歩く

【足利市について】

足利市は、足利氏発祥の地であり、八幡太郎義家の孫、義康が足利氏（源姓）を名乗り、この地を治めたことが始まりです。鎌倉時代には二代目義兼が居館を堀の内（現在の鎌阿寺）に置き、義兼の子孫も足利に住み、多くの寺社を建てたことから、市内には足利氏ゆかりの寺社が点在しています。また、足利尊氏は、義兼から数えて八代目にあたります。

近代になると、足利は織物の町として栄えました。昭和初期には素晴らしいデザインの「足利銘仙」が一世を風靡しました。

現代では、上記の歴史に関わる建造物だけでなく、足利フラワーパークやココファームワイナリーなども人気のスポットとなっています。

今回は歴史名所に加えて、秋の紅葉の名所となる「もみじ谷」を訪れ、足利の魅力を堪能してみましょう。

- 1 : 渡良瀬橋
- 2 : 織姫神社
- 3 : 織姫公園もみじ谷
- 4 : 鎌阿寺
- 5 : 足利学校



1.渡良瀬橋

渡良瀬橋は、市中央を流れる渡良瀬川にかかるトラス橋で、沈む夕日を背景とした川と橋のシルエットは美しい風景です。歌手の森高千里さんが歌った「渡良瀬橋」は大ヒットし、多くの方に親しまれ、川沿いに歌碑が建てられています。



2.織姫神社

この神社には、織姫のまち足利の守護神が祀られています。織物は経糸（たていと）と緯糸（よこいと）が織りあって生地となることから、男女二人の神様を御祭神とする縁結びの神社と呼ばれています。また、織物を作る織機や機械は、鉄でできているものも多いことから全産業の神様と言われ7つのご縁を結ぶ産業振興と縁結びの神社といわれています。

参道（男坂）は229段の石段となっており、上った先の社殿からは足利の町が一望できます。もう一つの参道（女坂）は七色の鳥居が配置され、これらは「七つのご神徳」を表現しています。



◆七つのご神徳

- ・赤色 よき人と縁結び
- ・黄色 よき健康と縁結び
- ・緑色 よき智恵と縁結び
- ・青色 よき人生と縁結び
- ・若草色 よき学業と縁結び
- ・朱色 よき仕事と縁結び
- ・紫色 よき経営と縁結び



【見られる樹木】

・チャノキ

ツバキ科の低木。若葉はお茶の葉として利用される。秋にツバキに似た白い花を咲かせ、その後茶色の実がなる。



・アオキ

暗い林内に生える木でツヤツヤの大きな葉が特徴。冬から春に赤い実をつける。葉に白や黄の斑(ふ)の入った栽培品種もよく見かける。雌雄異株。



3.織姫公園（もみじ谷）

織姫公園のもみじ谷には、数多くのモミジが植えられています。現在、もみじ谷には約1,000本のモミジが植えられており、紅葉の時期に谷が赤く染まる様子は一見の価値あります。

【見られる樹木】

・イロハモミジ（イロハカエデ）

一般にモミジというと、このイロハモミジを指すことが多い。5～7ある葉先をイ、ロ、ハと数えたことが名前の由来。秋には鮮やかに紅葉する。



・ユリノキ

葉先がくぼむことが特徴で、Tシャツのような形になる。別名は「ハンテンボク」でこの形を半纏に見立てたもの。5～6月に咲く花はチューリップに似ており、英名は「チューリップツリー」。秋には鮮やかに黄葉する。



・アカメガシワ

長く赤い葉柄が特徴。道路端や造成斜面、あるいは庭の隅などにも勝手に生えてくる雑草のような木で、このように日当たりの良い場所に真っ先に入り込んでくる木をパイオニアツリーと呼ぶ。パイオニアツリーは成長が非常に早く、やせ地でも良く育ち、比較的短命。



・ヌルデ

こちらもパイオニアツリーの一種で、日当たりの良い山野に普通に生える。羽状複葉の軸に翼がつくのが特徴。葉は虫こぶで汚れることが多い。秋には鮮やかに黄葉する。



・クサギ

名の由来は葉の匂い、臭いからクサギです。その匂いはカメムシの匂いに似ているという人もいれば、ピーナッツのようないい匂いと感じる人もいるので面白い。



4. 鎬阿寺（ばんないじ）

【歴史】

鎬阿寺は、鎌倉時代、建久七年（1197年）に足利義兼によって建立された真言宗大日派の本山。山号は金剛山。本尊は源氏、足利氏の守り本尊である大日如来（だいにちにょらい）を祀る。

約4万平方メートルに及ぶ敷地は、元々は足利氏の館（やかた）であり、現在でも、四方に門を設け、土塁と堀がめぐらされており、平安時代後期の武士の館の面影が残されている。またこの事から「史跡足利氏宅跡」として、大正10年3月に、国の史跡に指定されており、現在では「日本の名城百選」にもなっている。



寺院としては、鎌倉時代初期、1196年（建久7年）源姓足利氏2代目の足利義兼（よしかね）が発心度し、邸宅内に持仏堂を建てたのが始まりとされる。義兼死後、その子義氏が建立した本堂は、1229年に落雷により、焼失したが、足利貞氏が禅宗様式を取り入れ改修した。日本としては禅宗様式への転換期の最初期にあたる。鎌倉時代から室町時代にかけて寺院として次第に整備され、室町将軍家、鎌倉公方家などにより、足利氏の氏寺として手厚く庇護された。

境内には、本堂のほかにも、鐘楼（しょうろう）、一切経堂（きょうどう）が国の重要文化財、東門、西門、楼門（ろうもん）、多宝塔（たほうとう）、御靈屋（おたまや）、太鼓橋（たいこばし）が栃木県指定の建造物で、その他、市指定の建造物も多数あり、その他建造物以外にも、彫刻や文書、美術工芸品など、中世來の貴重な宝物類も多数残され、今に伝わっている。また市民の方々には古くより「大日様」と呼ばれている。

【見られる樹木】

・大銀杏

樹齢約650年、天然記念物。周囲9.5m。

銀杏は針葉樹でも広葉樹でもない特殊な木。中国原産の雌雄異株。雌株は実（ぎんなん）をつけるが、種の周囲の黄色の部分は悪臭を放つ。そのため街路樹はほとんど雄株。



・クスノキ

常緑広葉樹。高さ40メートル以上になることもあります、また日本で最も太くなる樹種でもある（幹回り24メートルの記録がある）。樹皮は細く短冊状にやや深く裂ける。葉は互生し、表面は光沢がある濃緑色、裏面は淡緑色、ふつう3本の葉脈が目立ち（三行脈）、その分岐点にはダニ室がある。葉をちぎるとツンとした樟脑の香りがある。防虫剤や薬用になる樟脑を採るために、かつては各地で栽培されていた。

スダジイ

常緑広葉樹の高木。幹はよく分岐して丸い樹形になる。樹高15-20m前後。葉裏が金色に見えることが特徴。果実はドングリで、熟すと殻斗の先端は3裂して顔を出す。ドングリは生で食べることができる。

5.足利学校

「日本最古の学校」「日本最古の総合大学」などといわれている足利学校の創建については、いくつかの説がありますが、学校の歴史が明らかになるのは室町時代中期以後です。

足利の領主となった上杉憲実が現在国宝に指定されている書籍を寄進し、庠主（しょうしゅ：校長）とし、学問の道を興し、学生の養成に力を注ぎました。その後は、代々禅僧が庠主になりました。

室町時代には、儒学、特に「易」について学校に学んだ僧は非常に多く永正年間（1504～1520）から天文年間（1532～1554）には学徒三千人といわれ、事実上日本の最高学府となり、第7世庠主、玉崗瑞瑛九華（ぎょくこうずいよきゅうが）の30年間にわたる在任中もおおいに発展しました。このことは天文18年（1549）フランシスコ・ザビエルによって「日本国中最も大にして最も有名なる坂東の大学…。」と海外まで伝えられました。

【見られる樹木】

・字降松（かなふりまつ）

読めない字や解らない言葉などを、紙に書いてこの松の枝に結んでおくと、翌日にはふりがなや注釈がついていたことから「かなふり松」と呼ばれるようになったと伝えられています。

・楷の木

カイノキは、直角に枝分かれすることや小葉がきれいに揃っていることから、楷書にちなんで名付けられたとされる。別名のクシノキは、山東省曲阜にある孔子の墓所「孔林」に弟子の子貢が植えたこの木が代々植え継がれていることに由来する。また、各地の孔子廟にも植えられている。このように孔子と縁が深いことから、学問の聖木とされる。



・不斷梅 花や実は普通の梅と同じですが、実が1年中なっています。実が落ちないことから、合格祈願に訪れています。孔子廟の西側にあります。